

研修ニュース

〒518-0814

三重県伊賀市上友生 785 番地

Tel&Fax 0595-21-8839 E-mail iga-ken@iga.ed.jp

研修講座 学校人権・同和教育【3回連続講座】③

「人権・部落問題学習の約束事」

【講師】 栗原 成壽 先生 （伊賀市教育委員会人権教育アドバイザー）

1月29日（月）、「人権・同和教育連続講座③」を実施しました。今回の講座の前には、12月1日（金）に青山中学校の栗栖先生に授業を公開していただき、事後検討会を行いました。「統一応募用紙」制定を題材とした授業を受けて、前半は、栗原先生より「教育的に不利な環境のもとにある子」と「題材の扱い」についてご指導いただきました。



「教育的に不利な環境のもとにある子」については、その児童・生徒の何が教育的に不利な環境のもとにあるといえるのか、視点となる児童や生徒のくらしを教師がどう捉えていたのか、今一度振り返る必要があることを確認しました。その上で、題材本来のねらいと教育的に不利な環境のもとにある子につけたい力が合っているかどうかについても吟味することが大切であることを学びました。

後半は、受講者から教育的に不利な環境のもとにある子のくらしや生活背景も出しながら、なかまづくりの取組や教育的に不利な環境のもとにある子に力をつけるための取組を交流しました。最後には、この講座を通して学んだことや気づいたことを出し合いました。家庭訪問で生活背景をつかむことやお互いのことを知ることの大切さを学び、子どもの見方が変わってきたことや取組につなげることで子どもの姿が変わってきたことも出されました。本講座で学んだことを今後の取組に活かしていただくとともに各校・園で還流をお願いします。

アンケートより 【一部抜粋】

・授業や人権学習だけでなく、日常生活の中で、お互いのくらしをわかり合うなかまづくりの取組をしていくことが大事だと改めて学びました。学級には、それぞれ異なる生活背景をもつ子どもたちが集まっています。そこで、なかまづくりを進めていくには、まず教師自身が子どものことを知る必要があると先生方の取組から感じました。その子にどんな力をつけていきたいのか、どんな事実があるのかを知るために家庭訪問に行き、一枚文集としてお互いのくらしをわかり合っていくことをこれからもしていきたいと思います。（小）

・今日の講座で印象に残ったのは教材設定についてです。Aにつけたい力にあったものなのか、それとも出せられるべく決まった内容を扱うものなのか、Aに必ずしも合ったものではない場合もある中でどういう力をつけていきたいか、そのためにどうするのかなど教材設定についてすごく考えさせられました。また、学習のまとめが生徒の意見交流だけにとどまらず、改めて最後に教材に立ち返る大切さも感じました。（中）